

授業改善等に関する報告書（2022年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2022（後期）教職課程】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語科教育法（1）	中山 誠一	貴重なご意見ありがとうございました。これからも皆さんに成長を実感いただけるような授業を目指したいと思います。
英語科教育法（4）	中山 誠一	貴重なご意見ありがとうございました。授業内容を改善して、もっとこの分野に興味を持っていただけるよう努力していきたいと思います。
家庭科教育法（1）	市毛 祐子	はじめて模擬授業を行って、教えることの難しさを実感したのではないのでしょうか。これからも皆さんが、理論と実践を往還しながら学ぶことができるよう、分かりやすい説明の仕方やプレゼンテーション、配布資料の工夫・改善をしていきます。
家庭科教育法（3）	市毛 祐子	皆さんが、より意欲的に取り組めるよう、資料の内容や説明の仕方を工夫してきましたが、今後も聞きやすさ、分かりやすさを心がけ授業の進め方のさらなる工夫・改善をしていきます。皆さんも実際に模擬授業を行うと、学習指導案どおりに授業が進まなかったり、自分の説明が思うようにできなかったりするなど、「教える」ことは、頭で考えていたよりはるかに難しいということを実感したことと思います。と同時に、他の人の模擬授業から多くのことを学んだことでしょうか。教材研究や学習指導案の作成などで忙しかったことと思いますが、この授業を通して、専門的な内容はもとより、課題をこなす上での時間の使い方や、優先順位のつけ方なども身についたことと思います。こうした気づきや学びをこれからの様々な場面で思い出し、活かしてくれることを願っています。
介護支援基礎論	柏崎 秀子	各項目の評価はほぼ平均あたりで順当なようでしたが、進むスピードがやや速かったようです。7回完結の授業なので、多くの内容を取り上げるようにしていることが関係しているかもしれません。内容の取捨選択はなかなか難しいですが、いっそう厳選するように努め、予習・復習の機会も積極的に活用していけたらと思います。
介護支援基礎論	柏崎 秀子	今回は回答数が非常に少なかったため、各項目の状況はつかみにくいです。スピードや双方性を改善が必要だとわかりました。7回完結の授業なので、多くの内容を取り上げていることが関係しているかもしれません。内容の取捨選択はなかなか難しいですが、いっそう厳選するように努め、学生とのやりとりする時間をより多く設けるようにしたいと思います。
教育課程論	清田 夏代	アンケートの結果については、概ね納得している。今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。
教育課程論	清田 夏代	評価の低い点についての改善も含めて、今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。
教育原理（栄養）	清田 夏代	アンケートの結果については、概ね納得している。今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。なお、この授業は、全7回を通して、欠席なしであった。学生の熱心な取り組みも、高く評価したい。
教育制度（栄養）	清田 夏代	アンケートの結果については、概ね納得している。今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。
教育相談	柏崎 秀子	支援の理論と方法を学ぶ密度の濃い科目で、各項目の評価はほぼ平均あたりでしたが、パワポ・資料の見やすさの点で改善が必要だとわかりました。コメントから、記入用ハンドアウトと授業スライドが微妙に違う場合があったようです。スライドは授業直前までより良く修正に努めるため、ハンドアウトの方が追いつけなかったようで、作業を並行するよう心がけていきます。また、コメントからは、どのように支援したらよいかを考える力が付いたり、自分で調べたり実際に体験したりすることが多く理解が深まったり、発表スライドを作る上での注意点なども学べた、などと書かれていて、手応えを感じました。この授業の学びを今後活かしてほしいと願っています。

[2022 (後期) 教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
教育相談	櫻井 成美	<p>アンケートへのご回答、ありがとうございました。</p> <p>全体的に、教育相談の授業に関心を持ち、ディスカッションや課題にも熱心に取り組んでくださる学生さんが多かったです。</p> <p>ただし、一部の学生さんで、授業途中の入退室が時折見られたり、授業中に私語があり数度注意をした回がありました。学生さんの中にも「私語が気になった」とアンケートに回答してくださった方がいましたので、周囲への影響を考え、今後は私語をしないように気をつけていただけたらと思います。</p> <p>また、授業アンケートの結果について、問9の「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったですか」への回答が、「とてもよくあてはまる」「どちらかといえばよくあてはまる」合わせて75%と、他の質問への回答よりもやや低めでした。理由として事前に読んでくる配布資料が多い回が2回程度あったことなどが考えられるため、今後再検討していきたいと考えています。また、配布資料の多くはmanabaに掲載しましたが、授業中の様子を拝見していて、PCではなくスマホで資料を見ている学生さんがいらしたことも、細かい字が読みづらいなどの影響があったのではないかと思います。授業中にもアナウンスしたように、PCは大学でも借りることができそうなので、スマホではなくPCをご用意いただけると良いと思います。</p> <p>今後も講義とディスカッションなどの主体的なワークをバランス良く行うなどの工夫をしたいと考えています。</p> <p>半期間の授業、お疲れさまでした。これからも教職の授業、頑張ってください。</p>
教育方法・技術論	宮脇 郁	<p>アンケートへのご協力、どうもありがとうございました。全体的にまずまずの評価をいただけて、安心しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料がわかりやすいということでした (Q9)。この授業ではパワポのスライドを提示していましたが「ノートをとるのに必死で考える余裕がない」ということが起きないように、スライドをPDF化したものをそのまま配布していました。これは今後も続けていきたいと思っています。 ・この授業の大きな特徴は、Zoomによる模擬授業を皆さんに実施してもらったことでした。自由記述の回答によると、模擬授業が好評で、特に「模擬授業を経験することで、授業の難しさがわかった」という意見がたくさんいただきました。また、ICTを活用した教育を経験してもらうために、あえてZoomでの模擬授業を行いました。オンライン授業特有の難しさも感じてもらえたようです。ICTを活用した模擬授業の試みは、今後も続けていく予定です。 ・せっかくの対面授業なので、グループで話し合う機会をできるだけたくさん作りました。これは今後も続ける予定ですが、「意見が出にくい問題があった」というコメントがありました。もっと活発な意見が出るよう、課題を工夫したいと思っています。 <p>皆さん半期間の間どうもありがとうございました。機会があったらまた一緒に勉強しましょう。</p>
教育方法・技術論	柄本 健太郎	<p>本授業は、教職課程において「理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できること」を目標に、学習指導案の作成、模擬授業の実施、ICTの活用を具体的な課題としていました。</p> <p>(1) 教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等</p> <p>本授業では教育効果の向上のため、以下のような工夫や取り組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク：ペアワークの導入により、他者の作成物を見る機会を得たり、他者と相互に評価し合う機会を得たりすることで、自分の制作物を客観的に見る力を得ることに加え、建設的な議論を行う力を得ることを狙いました。 ・ICTの体験：授業の中で、クラウドを前提としたドキュメント、フォームや、スライドを活用した動画作成を体験してもらいました。体験により、GIGAスクール構想に基づく学校現場の急速な変化への対応力を促進させる効果を狙いました。 ・その他の工夫：模擬授業の導入、学習指導案のテンプレートの提供 <p>(2) 学生の要望に対する対応（フィードバック）等</p> <p>本授業では、MANABA上のやりとりや、対面でのやりとりを学生の要望を聞き取る場としました。要望には、即時もしくは次回授業までに対応しました。</p> <p>(3) 学生からの授業評価</p> <p>【みなさんへ】半期おつかれさまでした。授業アンケートの回答もありがとうございました。作成した学習指導案、模擬授業の経験、IDの理論と、今後の実習等での学びを組み合わせ、今後がんばってください。</p>

【2022（後期）教職課程】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
教育方法・技術論（栄養）	柏崎 秀子	どの項目も平均より高い評価であり、特に、双方向性の点が非常に高かったですし、全体に関する大問もすべて高評価でした。そのため、受講生の皆さんと積極的に関わることができ、また皆さんが非常に深く学習できたのだと実感して、実にうれしいです。模擬授業に向けて段階を踏んで授業設計を体験的に学んでいくという授業スタイルを、今後も続けていこうと思えます。
教職研究 b	市毛 祐子	人に教えるためには、その内容をより深く理解しておくことが大切です。これからも貪欲に学び続けてください。私も、皆さんがより意欲的に授業に臨むことができるよう、内容の精選や資料の提示の仕方について工夫・改善をしていきたいと思えます。
教職実践演習（栄養）	清田 夏代, 白尾 美佳	アンケートの結果については、概ね納得している。今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。
教職実践演習（中・高）	市毛 祐子	この科目では、これまでの教職課程の学びを振り返るとともに、教育実習の体験を踏まえ、自分に不足している力は何か、そしてそれを補うために何をすべきかを各自であらためて確認しながら、様々な演習を行ってきました。教職課程の集大成として、皆さんが各回の授業に関心をもち、意欲的に取り組み、ディスカッションやグループワークが活発に行われたことをとても頼もしく思っています。これから社会に出て様々な問題に直面した時に、課題を解決する一助になればと願っています。
教職実践演習（中・高）	清田 夏代	アンケートの結果については、概ね納得している。今後とも、授業の質を高めるよう、努力していきたい。
教職実践演習（中・高）	中村 一哉	「教職実践演習」は、4年間の教職課程の最後のまとめの科目で、言わば集大成となる授業です。今年は、全体の3分の1の人が教育実習を秋の時期に実施することになっていたため、前期の「教育実習 A/B」と後期の「教職実践演習」との間で、内容の相互の乗り入れや関連を図りながら授業を進めることになりました。結果として、とても大きな成果があったと受け止めています。何より、教育実習を貴重な機会として、一人一人が多くの学びのある体験として活かしたことが挙げられます。体験して終わりではなく、その後の個人としてのまとめや発表。さらに、実習を通して把握した課題に関するグループでの課題追究や発表を通して、教育に対する視野を広げ、問題を深く捉えることができるようになったと感じています。美術科教育法(1)を、コロナのためオンラインでスタートした学年が、色々なことを乗り越えて、大きく成長したことを嬉しく思っています。卒業後の進路はそれぞれだと思いますが、教職を学んだ成果をぜひ、人生のどこかで活かしてくれることを期待しています。
国語科教育法（1）	渡邊 重人	2022年度後期 授業アンケート結果を参照すると、「Ⅰ.あなた自身について 4.あなたはこの授業をどれくらいの割合で理解できましたか？」のポイントが76.7%でした。また、「Ⅲ.全体について 14.あなたがこの授業で自分自身に成績をつけたとしたら、成績評価は何ですか？」のポイントは3.59でした。これらの数値を踏まえると、単に理解度を高めるだけでなく、それらを使いこなすことができるという自信が持てるようになる必要があると考えました。次年度は、教材研究の方法の習得・学習指導要領の内容の把握・学習指導案作成のポイントの習得などに関する支援の充実を図ります。具体的には、課題作成の進捗状況を履修者と担当者が把握するため、manabaやGoogle Classroomをより活用するようにします。また、授業内で質問できる時間を増やし、理解度の確認を随時可能なようにする予定です。
国語科教育法（4）	渡邊 重人	2022年度後期 授業アンケート集計結果を参照すると、予習復習時間の平均が1.11hであり、この点について改善の必要があると考えます。これまでも教材の事前配布によって、改善を図ってきましたが、教材研究のポイントについても事前に指示するなどの取り組みを充実させる予定です。また、授業の理解度が77.0%であった点についても、改善を図ります。この点については、履修者間で理解度を確保するような取り組みを設ける予定です。
児童・生徒栄養教育論（2）	白尾 美佳	授業お疲れさまでした。さらに、勉強した知識や技術が今後の実習に反映されることを願っています。
特別支援教育論	柏崎 秀子	どの項目も満点に近い高評価で、実に、やり甲斐を感じました。コメントから、特別支援教育に関心を寄せていた受講生が多くて、意識の高さに改めて感銘を受けました。また、教師という立場のあり方や支援方法など、重要事項をしっかりと学び取ってくれたこともわかり、担当者として実に嬉しく手応えを感じています。今後ますます必要とされる領域ですので、引き続き学修を深めていってほしいと願っています。
特別支援教育論	柏崎 秀子	どの項目も平均より高い評価となり、資料を作り込んだりわかりやすくなるように力を注いだりした甲斐があったと感じています。コメントにも、自分の学びに力が付くと書かれていて、受講生が深い学びができたようで、非常にうれしいです。これからの教育現場に不可欠な知識ですから、一層学修を深めていってほしいと願っています。

[2022（後期）教職課程] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
特別支援教育論	柏崎 秀子	今回は回答数が非常に少なかったため、各項目の状況はつかみにくいです が、だいたい平均程度で、聞き取りやすさの点でやや改善していった方がよ いとわかりましたので、心がけていこうと思います。コメントから、支援が 必要な生徒への知識が得られたようで、これからの教育現場に不可欠な知識 ですから、一層学修を深めていってほしいと願っています。
美術科教育法（1）	中村 一哉	美術科教育法(1)は、今後、(4)まで続く教科教育法のスタートにあたる科 目で、美術科の教員を目指す上での基本的な理解を深めることが主な内容で した。それだけに、学習指導要領の内容をはじめとして、美術教育の流れや 子供の発達と美術との関わりなど、多岐な内容について学修してきました。 15名という比較的多い人数での授業でしたが、グループワークなど、皆さん が協力して充実した内容での授業が進められたと感じています。また、今回 は写真や平面構成など、実技も取り入れながら授業の在り方を考えてきまし たが、楽しみながら美術の授業に対する理解を深めることができたように思 います。美術科教育法(2)では、指導案の作成や模擬授業など、授業をつく る主体者としての学びに移行していきます。ぜひ、この美術科教育法(1)で 身に付けたことを基盤にしなが、それを更に発展させることを目指してほ しいと思っています。
美術科教育法（4）	中村 一哉	美術科教育法(4)は、教科教育法のまとめに位置する学びで、最終年度の4 年生で実施する教育実習につながるものです。言わば教育法(2)で課題と なっていたものを改善し、仕上げていく過程と言えるでしょう。学習指導案 についての不安が解消されて、自信がもてるようになったこと。それが何よ りの成果だと思います。課題は、5名しかいない模擬授業で、実際の中学校 での授業の臨場感が感じ取れなかったこと。最後の中学校の授業見学で、そ れもだいぶイメージできるようになったはずです。ぜひ、その経験を教育実 習につなげてほしいと思います。なお、今期の授業に関するコメントは、最 終で行なった個人の振り返りに対するコメントでも、個別に書かせていた きました。そちらも、ぜひ、参考にしてみてください。